
氷と眠と幻想郷と。

あるばか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

氷と眠と幻想郷と。

【コード】

N0901Z

【作者名】

あるぱか

【あらすじ】

周りには真つ赤に燃える火とか火とか火。死ぬことを覚悟したが、「生きたい」の一言のせいか、目が覚めたら森の中。あと色々おかししい。

この作品には駄文、キャラ崩壊、厨二病、その他諸々含まれていません。作者はニコ厨です。

てめえなんか大嫌いだぜ！という方は即シャットダウン、別にいいんじゃない？という方はお読み下さい。

1話 炎に包まれて。

ごおおおおおおおおおお

目を開けると、飛び込んでくるのは真っ赤な火。

天井の部分が崩れ、道を阻む。

やろつと思えばいけるのかもしれないが、火のせいで通れない。

殆どの人なら慌てだすだろう。

でも自分は、祈ってみる。

まだ希望はある。…と思う。

ゆっくり、ゆっくり目を閉じて

手をぴったり合わせ

周りの火が自分を包み

真っ赤な自分になる。

誰でも思うだろう。

『死ぬのかなあ』

体が火に包まれ、

皮膚は焦げて真っ黒になり、

髪の毛は一つも無くなり、

目から涙を流して、こういった。

「まだ生きたい。

生きたかった」

最後のお願いです。

どうか叶えてください。

意識がぷつんと無くなった。

目が覚めた。
何故生きてるし。

視線が低い。
え？ なにそれ怖い。

周り木や草だらけ。
近くの公園じゃね？

でも、自分の知ってる公園じゃない。

これは森だ。

……どろどろ

1話 炎に包まれて。（後書き）

初めまして、あるばかと申します。

この小説を読む人がいるのかとドキドキしてます。

超 初心者なのでアドバイスや感想をくれると飛び跳ねて喜びます。
この作品は、幻想郷ができて何年かしたら他の原作とクロスしたい
と思います。

今後よろしくお願いします。

2話 驚愕する。(前書き)

休日は適当な時間に投稿すると思いますが、平日は4〜5時くらいに投稿すると思います。(土、火は塾があるので遅れます)とりあえず頑張ります。

2話 驚愕する。

さっきも聞いたと思うけど、
視線が低いんだ。

横になってないし、そこにあつた岩より自分小さいし。

飛び跳ねても届かないし。

なんなんだよう…。

後で姿確認しないとなあ…。

そういえば、なんで自分はここにいるんだっけ。

思い出そうと、必死に記憶を辿る。

〵〵回想終わり〵〵

しゅおお (r y

〵〵回想〵〵

そしてここに戻る…と。

おおお…

生きてたのか。

未練はあったけど、この世界にもパソコンがあったら…

…おっと、いけない。

つい無駄な予定表を立てるところだった。

でも、パソコンがなかったら…

あれ？ 目から汗が…

つかそろそろ体がどうなっているか見たい。

森の中を彷徨い歩き、25分以上かかって湖を発見。

いやあ、歩くの大変だった。

小さな足だし、体力ないから余計に疲れた。

しかも、キノコに足が生えたキモいやつがいて、

キノコが待ち伏せしてたら、栗鼠が木の実を持って木に登ろうとしてたんだ。

そしたら…

ぐちゃっ

ていう音がして、

栗鼠をキノコを食べてた。

栗鼠は暴れまわってた。

がたがたがたがたしながら、

見て見ぬふりをして、抜き足でここまでついたんだ。

まあ、過ぎたことだし、今は体確認だ！

ひょいっと湖を覗く。

「……………なんじゃこりゃああああああああああああああああ
あああああ！」

そこには銀色のハリネズミが居ました。
どやっほい。

2話 驚愕する。(後書き)

話長くして欲しい！ というコメントがあったら
多分長くする……はず。
もういやだああ

3話 現実とは (前書き)

なんか小説が短くなってきてる…
あ、少しだけ長くしました。

さて、さっきまでパニック状態になっていたのだが、
ウイスピーウツズの怖い版みたいなのがこっち見て、

ギロリ

とこちらを睨んだので、
またがたがた震えながら状況確認してます。

ていつか、日本語で喋ってるように見えるけど、
きいきい言ってるんだよね。
不思議！

ま、それは置いていて。

今の体は、

銀色のとげとげした針がある背中に

突きでた鼻に、丸い耳

くりくりの目…

「生きてるのは嬉しいけど、

幻想郷みたいなどこに来てハリネズミとか…」

いやだわあ、死亡フラグびんびんじゃん…

まあ、来たいとか言ってたんだけどね。

普通のカナリアとかあればいいんだけどなあ…

んん…能力ないかな………

…だめだ。何かでできそうだけど、出ない。

「現実って、厳しいね……ん？」

がさがさっ

あれ……？

急に眠くなってきた……

「くすくすっ。」

やった！成功だー！

…それにしても、ちっさいなあ
「

『凍らせる程度の能力』

3話 現実とは。（後書き）

平日は更新してない…
だめだ。続けられる気がしない。

勝手に質問をつくって答えるこーなー

Q 作者名があるばかなのになんでハリネズミなの？

A あるばかって動きにくくね？

脳内で小説書いたときにハリネズミって決めてたし。
後作者自体がこの疑問にまったく気が付かなかった。

4話 名前が無い。

「ん〜撫でてもいいかなあ……」

でも針が怖いなあー。…よしっ!」

撫でることに決めたー!

「んしょ」

ぽすっ

自分の膝に乗せて、撫でてみる。

「…あ、大丈夫だー」

ふわふわー」

針が立ってないからかな?

叫び声(鳴き声?)が聞こえたからここに来たんだけど…

まさかこの子だったとはねー。

結構大きな声だねー。
びっくり！

「きゆう……」

お。早かったなー。

「起きちゃったのかな？」

ん……………あれ…ここ何処だろ……………

「起きちゃったのかな？」

おろー？

そこには猫耳と2本の尻尾をつけたしよ…コスプレ幼女がいた。

猫又？……………つかそれ以前に尻尾動いてるからコスプレじゃないし。

そもそも自分ハリネズミだし。

夢オチもあり得るけど。

夢才チがいいし、現実がいいけど。

「どうしたのー？」

黙りこんでー」

おお、忘れてた。猫コネツレ又娘を。

「えつと……君誰？」

言葉通じるよね？ ね？ え？

「可愛いなあー」

駄目だこいつ……

「あ、んーと僕はね？ヒリネっていうんだー」

ほうほう、ヒリネか。

しかも僕っ娘。

「じゃあ、君の名前はー？」

……え？

あ、名前……覚えてねえ……

猫^{コスプレ}又娘が首をかしげてるので、名前を考えてみる。

ん…？

『凍らせる程度の能力』

おお？何か能力が……うん。これにしよう。

「私の名前は凍葉だよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0901z/>

氷と眠と幻想郷と。

2011年12月11日00時54分発行